

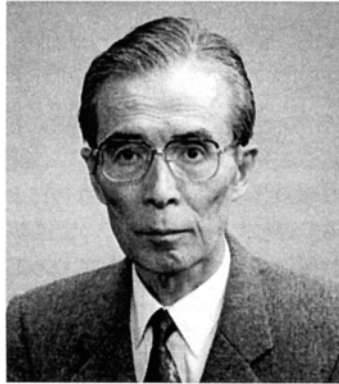
第80回日本生理学会

3月24～26日（福岡国際会議場ほか）

今永 一成、河田 溥（福岡大学生理学教授）



今永氏



河田氏

このたび、第26回日本医学会総会が福岡市で開催されますことを機に、その分科会として、第80回日本生理学会大会を主催させていただくことになり24～26の3日間、新設の福岡国際会議場を中心に他2施設で開催いたします。

わが国における生理学会の創立は明治（1902年）に遡り、医学関係のなかでも歴史の長い伝統ある学会の一つであります。生理学会会員は現在4000名を超え、分子生物～生理学、器官生理学、病態生理学、環境～適応生理学、宇宙医学、遺伝情報学など極めて広い範囲の研究が行われており、学術大会ではこれらの分野から最新の成果の発表、活発な討論が行われます。演題数も年ごとに増加を続けて、最近ではシンポジウムを含め実に1000題を超えています。

本大会では、特別講演として、ANP 発見者の松尾寿之氏（宮崎医科大学長）「ペプチドホルモンと生体システムの制御」、分子病理学創始者の広橋説雄氏（国立がんセンター研究所長）「ヒトがんの形態形成における細胞接着系の異常」、計算論的神経科学で有名な川人光男氏（国際電気通信基礎技術研究所）「脳の計算理論とロボティクス」の3題としました。

QOL 主題の共同シンポジウムも

各委員会指定シンポジウム13題、公募シンポジウム21題、一般演題744題、ランチオンセミナー4題、サテライトシンポジウム3題となりました。シンポジウムのなかには、2009年国際生理学会(IUPS)がわが国で開催されることに鑑み、国際化を目指し外国研究者を招待した IUPS 関係4題、Journal of Physiology 関係1題、Japan-Korea 関係1題が含まれております。サテライト行事として第3回環境生理シンポジウム、第9回生理学女性研究者の会、主に高校生を対象にした市民公開講座「病気の起こり方一分かりやすい話」(生活習慣病)を企画しました。

今回の大きな特徴の一つは、薬理学会との合同開催であります。本年は第76回日本薬理学会年會が同じく分科会として福岡市で開催されます。そこで、生理学と薬理学が研究の方法、内容において相互補完しながら発展してきたこと、両学会の発展、交流、活性化の必要性に鑑み、薬理学会と連携し、同時期、同会場で開催することにいたしました。生理学会独自のシンポジウムに加え、両学会共同シンポジウムとして「QOL」をメインテーマにホットな課題を16題企画しました。オーガナイザーおよびシンポジストを両学会会員で担っていただき、同じテーマについて生理学と薬理学から討論しようというものです。

薬理学会からも特別講演、教育講演、指定シンポジウム、サテライト、公募シンポジウム、一般演題など多くの演題が出されております(薬理学会を参照)が、両学会公募シンポジウムではできるだけ生理薬理学会の共同参加を求め、一般演題では座長2人制で両学会から担当していただき各ジャンルではまったくの混合で

発表、討論されます。総計しますと、特別講演8題、教育講演5題、シンポジウム77題、一般演題1636題、ランチオンセミナー11題、サテライトシンポジウム4題といふかなり大きな学術大会になります。

両学会にとって初めての試みであり、両学会の特質を尊重しつつ、合同の利点を最大に引き出すことを主眼としました。このようなことで、参加者は外国からの研究者、両学会員を含め約4500名となり、一堂に会し活発な討議が行われますことは、両学会の更なる活性化、ひいては生命理論の発展、新薬開発など人類の幸福のために大きく寄与するものと確信します。